

【嫌だ。嫌。イヤだ。イヤダ。】

RaruFlag

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

幽霊見たがりの彼は  
どうなったのでしょうか

目次

【嫌だ。嫌。イヤだ。イヤダ。】

【嫌だ。嫌。イヤだ。イヤダ。】

幽霊はいない

そう言うかたは沢山いますよね

このお話は

そんな事を信じ

幽霊を見ようとした彼の物語

幽霊の話はみんなする癖に

見たことある人間なんて

信じ難いと皆言い張る

意味不明だよね……ははっ

|||||

僕が今見ている場所

それは

とある【広場】だ

なんでこんなところにいるかって？

真実を確かめるためさ

ここの広場には

噂。がある

夜中の2：45になると

化け物が出てきて  
その場にいた者は

その化け物に

食われる

という変な噂だ

バカバカしい

正直僕は幽霊とか化け物とか

信じないタイプの人間ゆえに

1度見てみたいと思ったのだ

興味深い

その存在を見てみたいのだ

「早く出てこいよ……」

そして

夜中の2 : 45 : ……

僕は広場に座っている

すると…

【あ〃あ〃あああ〃っ〃!!!!  
】

「!!?  
」

予想と違う登場の仕方に

驚きを隠せない

【あ〃あ〃あああ〃あ〃あ〃あああ〃あ〃あ〃あああ〃あ〃あ〃あああ〃あ〃あ〃あああ〃あ〃あ〃あああ〃つ〃!!!!  
】あ  
あ

その化け物は

僕の方へと近付いてくる

幽霊なんかじゃない

人間の姿なんかじゃない

まるでヘドロが結合したような

怪物、化け物だ

一步ずつ

一歩ずつ

確実に

僕のほうへと

ズルズルとその体を引きずってくる

僕はと言うと

腰が抜けて動けない

頭が理解出来てない

怖すぎて声も出ない

幽霊が怖くないなんて

思っていた自分がバカバカしい

誰か助けて

なんてまで思い始めた

こんな事

面白半分でやるんじゃなかった

怖い

怖い



そう考えているうちにも

化け物は僕の目の前まで迫っていた

あれ？

アレ？

あれ？

ふえ??

ふええふ??

これで終わり？

終ワリ？

ヲワリ??

え、シヌの？

死ぬの？

シぬの？

嫌だ

嫌だよ？

嫌だよ???  
よ?よよ??

「い、嫌だっ……………」

「嫌だあ……………」

【い…………やだ…………あ…………】

【イ…………やだ…………あ…………】

【く…………ルシイ…………ツ…………】

【モウ…………ドコニモ…………】

モドレナイ……………】

【ドウスレバ……………】

【ダツタラ……………】

ホカノヤツラヲトリコメバイイ】

【ああ……………そうか……………】

【り……………ヨウかいし……………だ……………】

彼は気づいていない

【自分が化け物だトイウコトニ  
全ク気ヅカヌ哀レナ彼ハ  
一生アノ広場デ

…：夢ヲミテイル事デショウ】

「めでたしめでたし♪」

「あ、」

「あの広場には行つてはダメですよ？」

「へ？なぜかって??」

「何故そんなことを聞くのですか？」

「どうしても知りたい？」

「仕方ないですねえ……………」

「決まっているでは

ありませんか……………」

【化け物がいる所に

貴方を行かせる訳無いでしょう?】